

令和3年度(2021年度)第1回委員会における
地域課題解決に向けた取り組み実施に係る主なご意見

1 就労系福祉サービス事業所による授産製品販売及び受注業務のPRイベント開催について

- ① イベント自体は令和3年度は難しいが、令和4年度開催に向けての準備は充分できるのではないかと。
- ② 障がいのある人にとっても、イベントは、目的と機会、自分のやっていることに価値を見出す機会になる。
- ③ もしイベント開催となると、かなりの人数が集まることになると思うので、当事者の家族としては、今の状況では怖いと感じる。
コロナ禍が落ち着いて開催できる時期になったら、授産製品販売や展示の他に、子どもたちも楽しめるような、ヨーヨーや縁日みたいなものがあれば、子連れでも行きやすいし、宣伝もしやすい。
- ④ コロナが落ち着いた後は、町内会など地域の方と障がい者の方が一緒に遊べるイベントができればよい。
- ⑤ コロナがおさまってイベントをするのでも、障がいを抱えた人は、元の生活に戻るのに相当な時間を要するのではないかと。
- ⑥ 今コロナが収束するかわからない状況なので、イベントを開催するにあたって、事業所が参加しやすい様な形の取り組み提案ができればよいのではないかと。
- ⑦ 今まで集まってやっていたイベント的なものを、コロナが終わったら開催しようというのではなくて、感染対策を十分講じたうえで開催することを検討してはどうか。
- ⑧ いつもイベントをやるときは大体稚内市だが、他の地域で開催してもいいのではないかと。

2 web上での広報について

- ① アナログになることによって見る人もいる。新聞にQRコードがあってそこから見ることができるといった方法がある。
- ② ハッシュタグなどを利用する手もある。そのハッシュタグにひっかかる言葉を考えて、興味のある人へ発信する手立てもあると思う。
- ③ インターネットに疎い方のため、アナログは必要だと思う。
- ④ ひとところに集まるのが難しい今、イベントをやるのであれば、やはりWeb上が良いと思う。
他の事業所の販売ページや製品の紹介、事業所の紹介にジャンプできる、集約型のホームページでのPRをやってみてもよいと思う。